

海洋プラスチックごみに関する各種ガイドラインの概要

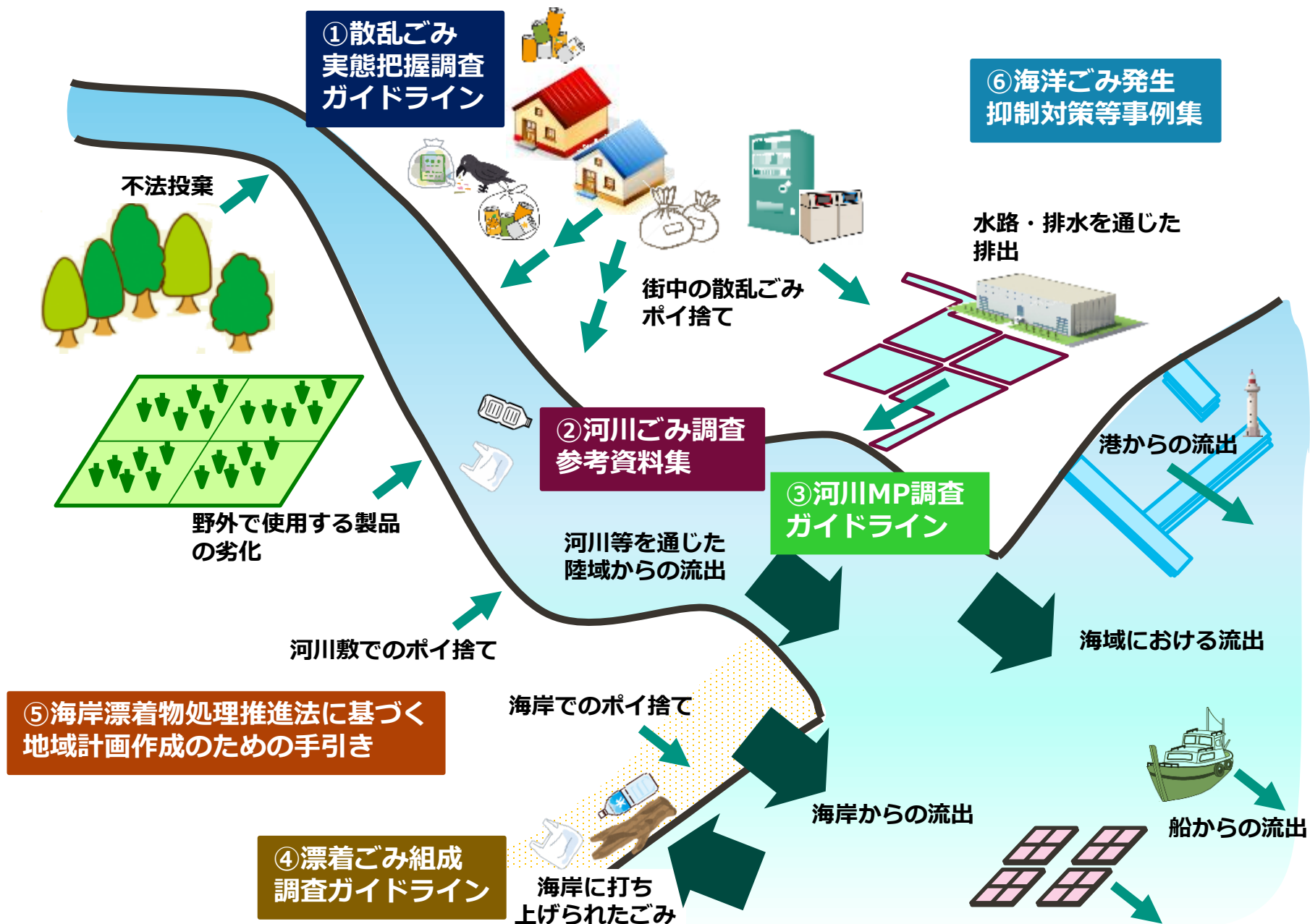


令和3年12月
環境省海洋環境室

海洋プラスチックごみに関する各種調査ガイドライン等

- 世界の海洋プラスチックごみの約 8 割は陸域から発生していることから、流域圏で内陸から沿岸及び海洋にわたる関係主体が一体となって発生抑制対策等を行うことが不可欠である。
- 環境省では、内陸から河川を經由して海洋へ流出するごみの量・組成等を経年的に把握するための海洋プラスチックごみに関する各種調査ガイドライン等の作成を進めてきた。





名称	対象者	目的・対象	期待される活用方法
① 散乱ごみ 実態把握調査ガイドライン	自治体、地方環境研究所、自治体からの発注を受けて調査を実施する調査機関・事業者等	<u>陸域や河岸・河川敷に散乱するごみの実態の把握</u>	散乱ごみ対策の実施場所、対象や方向性、実施した対策の効果検証、対策効果の長期的なモニタリング等への活用
② 河川ごみ調査参考資料集		<u>陸域から海域へ流出する河川を浮遊するごみ(原則、長径25mm以上)の実態の把握</u>	河川ごみの実態把握とその対策の対象や方向性、具体的な対策の指標、さらには実施した対策の長期的な評価指標を得る
③ 河川マイクロプラスチック調査ガイドライン		陸域から海域へ流出するマイクロプラスチックのうち、 <u>河川水中におけるマイクロプラスチックの実態の把握</u>	調査結果を基に、地方自治体が関係機関や住民等と連携すること等により、マイクロプラスチックの発生源対策等の推進
④ 漂着ごみ組成調査ガイドライン		各地方公共団体の <u>海岸において、長期的に、継続して漂着ごみの組成や存在量の実態、それらの経年変化の把握</u>	漂着ごみ対策の対象や方向性、具体的な対策の指標、さらには実施した対策の長期的な評価指標を得る
⑤ 海岸漂着物処理推進法に基づく地域計画作成のための手引き	都道府県	海岸漂着物処理推進法に基づく地域計画の作成又は変更	地域における海岸漂着物対策の総合的かつ効果的な推進
⑥ 海洋ごみ発生抑制対策等事例集	自治体、NPO、自治会等	海洋ごみの発生抑制対策等の効果的な実施	新たな海洋ごみの発生の抑制や回収の促進

海洋ごみ発生抑制対策等事例集

実証自治体及び事業概要

●名古屋市

【2019年度】出張講座による普及啓発

小学生とその保護者を対象に海洋ごみへの問題意識と自分の生活との関係について「海のごみとつながっているわたしたちの暮らし」をテーマに啓発講座を実施し、講座の効果検証を実施。

●津山市

【2019年度】ポイ捨て対策

環境心理学の知見を活用したポイ捨て行為の抑止対策を実施し、効果検証を実施。

【2019年度】出張講座による普及啓発

一般市民（約30名程度）を対象に海洋ごみ問題について、専門家による講義、参加者によるグループ討議を実施し、講座の効果検証を実施。

●熊本県

【2020年度】農業・漁業等、関係団体と連携した取組強化

海洋ごみの組成調査をもとに、農業・漁業団体等と連携した資材の流出及び飛散防止のための取組や商工団体等と連携したポイ捨て防止の啓発等の効果を検証する。

●富山市

【2020年度】網場の設置運用

河川を流下するごみを回収する方法として、網場を河川や排水路に常設する上で留意する点（設置場所の選定方法、設置及び維持管理の手続きや技術的な留意点等）について示す。

●函館市

【2020年度】電車やバスへの広告掲載による普及啓発

海洋ごみに対する知識やポイ捨てごみに対する意識や行動等の変化を指標に、啓発効果について検証する。

●四日市市

【2019年度】ポイ捨て対策

環境心理学の知見を活用したポイ捨て行為の抑止対策を実施し、効果検証を実施。

【2019年度】地域との協働による2Rの取組

2Rの取組を地域で進めるため、地域組織と連携し、地域での環境に関する事業活動の持続的な活動に向けた支援を実施。

【2020年度】ごみ集積場対策

ごみ回収場所に網や集積場設備を整備して、飛散・流出防止効果を検証し、ごみ集積場の効果的な整備方法を示す。

●和歌山県

【2020年度】監視カメラの設置運用

市町村及び監視カメラメーカーに対してヒアリング、並びに実際のカメラの設置状況の調査を実施し、監視カメラの効果的な設置運用の方法を示す。



【四日市市】ポイ捨て抑止対策①

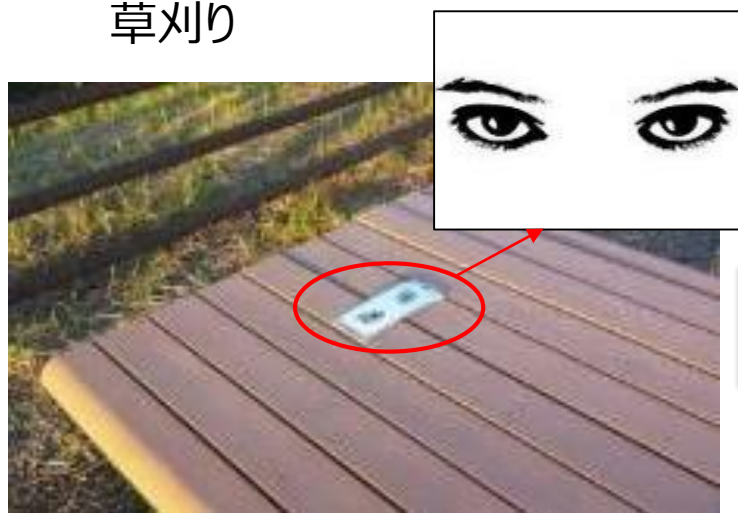
- 環境心理学の知見を活用したポイ捨て行為の抑止対策を実施
- 環境へ複数の介入を行い、それぞれの取組による散乱ごみの変化を計測



草刈り



プランター設置



警鐘表示（ヒトの目）



児童絵画の設置

【四日市市】ポイ捨て抑止対策②

- 「草刈り・プランター」が他の環境介入の場合よりもポイ捨て行為の抑制効果は高かった
- 降雨や強風等の気象変化により散乱ごみの一部が飛散、流出してしまい、直前のモニタリング時に確認されたごみの総数が減少している場合がある
(とくに「草刈り・目の掲示」の時期)

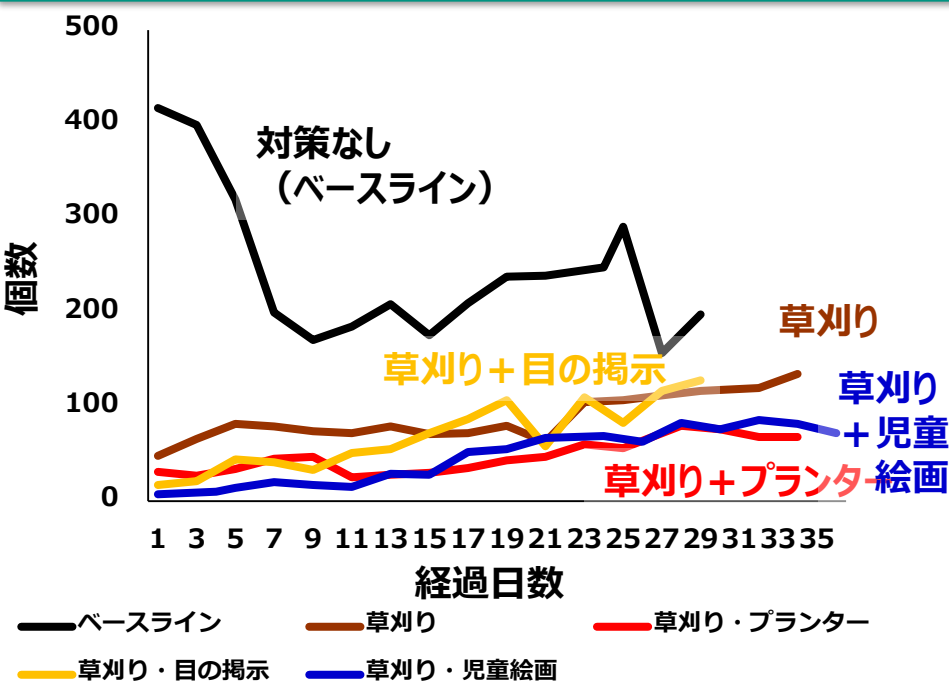


図 ポイ捨て数の時系列変化 (四日市市)

- 対策なしに比べて、環境介入することでごみの増加率が減少した(傾きが小さくなった)。
- ごみが急激に減少している期間の多くは、風雨の影響により、ごみが流出したものと推察される。

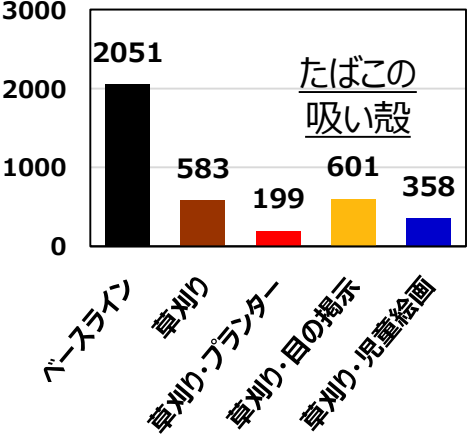
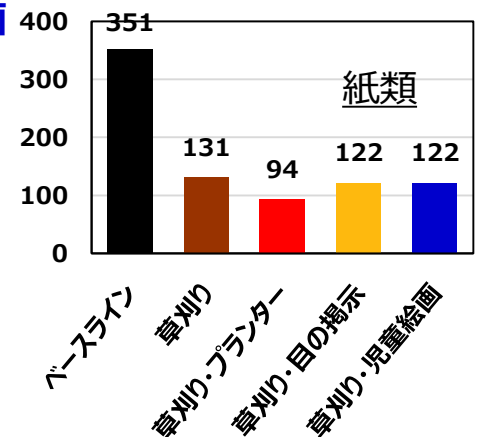
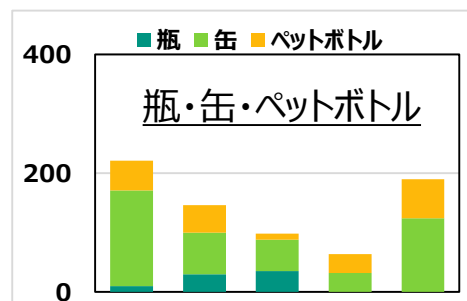
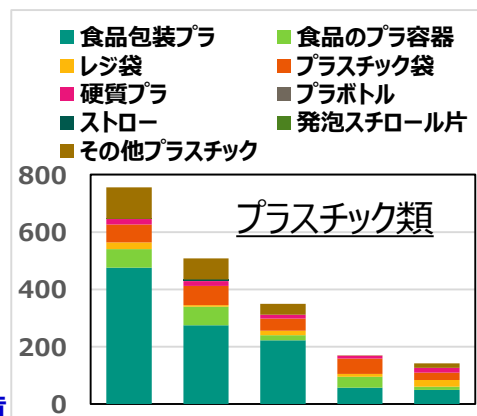


図 平均ポイ捨て数と増減数の変化 (四日市市)

【四日市市】ごみ集積場対策

【対策前】



【設置場所の特徴】 橋に近い
河川沿道にある集積場
【形態】ネットのみ
【散乱原因】カラス

【対策後】



【対策方法 1】市販の吊り下げ式カラス
よけネット（側面マチ付き）に変更

【対策前】



【設置場所の特徴】 排水路と道路に
挟まれた歩道にある集積場
【形態】ネットのみ
【散乱原因】カラス、車の巻き込み

【対策後】



【対策方法 2】折り畳み式ケージに変更